

三次救急と後遺症なき日常生活をめざして

「富士には月見草がよく似合う」と言ったのは『富嶽百景』での太宰治の言葉ですが、桜が満開の東京です。桜と東京タワーと一緒に写真に写らないかなといろいろ撮ってみました。今朝は霞がかかっています。この13階の部屋からは東京タワーの右手に増上寺と芝公園の桜が見えます。

学会の準備はプログラムの組み立てが最終段階に入りました。追加募集をしてくださった皆様の査読がもう少しで終了いたします。登録してくださった皆様、査読の先生方、ありがとうございます。

臨床では、ダブル改定となった診療報酬の確認がたけなわです。地域のなかで人々をどう支えていくか、支えあっていくかなど、医療の様相が急ピッチで変化しているという実感があります。何らかの病気などを得て急性状態にある方が回復のプロセスを経て、社会復帰するために、病院や地域の施設の役割や連携の在り方を、ともに検討して切り開いていく時代に入っています。

学術集会では東京都済生会中央病院院長の高木誠先生をお迎えし、三次救急として「一秒を争う救命」の役割を担いつつ、「後遺症なき日常生活をめざして」地域での生活を送ることができるよう支援する、地域の中核病院ありようをお話ししていただきます。高木先生のご専門は脳神経内科です。長い間、病気を抱えながら生活をする人々を温かい目で診療されてきました。先生の医師としての取り組みのお話も聞けるのではないかと楽しみにしています。

平成30年3月28日 東めぐみ



赤羽橋から見た桜と東京タワー



3月28日 朝の東京タワー